

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：2026年 3月 2日

事業所名 合同会社 放課後等デイサービス にじ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	感染症の疑いがある場合は、各部屋に迅速に利用者を分離している。	
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%	重心対応ができるよう看護師含め児童指導員、PT等の専門性を活かしている。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	100%	0%	入り口の段差解消のためスロープ、入浴補助機等の活用している。	安全面に十分配慮し、設備整備をより図っていく。
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	100%	0%	開始前のミーティングや行事ごとの会議等で情報提供や意見交換をしている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%		今後とも、定期的に「にじ通信」を発行及び日々の連絡帳、送迎時を活用し、保護者等の意向を把握していく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%		にじのホームページを保護者に周知し、気楽に見ていただくよう声掛けする。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0%	100%	保護者のご意見を常に把握するようにしている。	今後の検討事項としていく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	適宜、実技研修を行っている。	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	個別の支援計画に基づき、評価しながら改善に努める。	

適切な支援の提供	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%	個別の支援計画に基づき、評価しながら改善に努める。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	保護者、利用者のニーズを把握し、立案に努めている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	季節ごとの特色が出るプログラムの立案に努めている。	サマータイムフェスティバル、ウインターフェスティバルwithサンタクロースを高山台集会所で実施し、保護者間の交流を図った。企画にも子どもたちが参画し
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%	0%	時間配分し、目標設定に努めている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	時間配分し、目標設定に努めている。	春、秋に子どもの状況に合わせて、集団活動（曾我川公園）に出かけたり、個別の音楽活動も行った。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	打合せを日々しているが、気づいたことは、ホワイトボードに記載し見えるかしている	見える化することで、職員間の意思疎通がよりスムーズになった。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	打合せを日々しているが、気づいたことは、ホワイトボードに記載するようにしている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	個人個人の連絡帳を職員間で共有することで、正しく記載するよう徹底している。	体調面含め子どもの様子が把握しやすくなった。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%		
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせることで支援を行っている	100%	0%		
20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%			

関係機関や保護者との連携	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	100%	0%	学校へ一年間の活動のまとめを提供している。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	100%	0%	月一回、医師が来所し連携している。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	100%	0%		
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	100%	0%	卒業後の利用施設への実地指導を行っている。	卒業後、利用する施設へのサマリーを送付していく。
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	80%	20%		職員へ研修等の情報等の提供を随時実施する。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0%	100%		今後の検討事項としていく。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	0%	100%		今後の検討事項としていく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	送迎時やlineなどで情報の共有を図っている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	60%	40%	一部の職員で実施している。	全職員が支援できるように研修の充実を図る。

保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	80%	20%		サマータイムフェスティバル、クリスマス会を高山台集会所で実施し保護者間の交流を図った。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%		
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	にじ通信に写真なども掲載し、わかりやすく発信している。	
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%		年度当初、個人情報保護の観点や事業所での情報の活用について保護者に周知する。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0%	100%		今後の検討事項としていく。
非常時	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%	0%	月に一回、全職員によるマニュアルの確認を行っている。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	月に一回、全職員によるマニュアルの確認を行っている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	月に一回、全職員によるマニュアルの確認を行っている。	

等 の 対 応	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%	0%	子どもの状況に応じて、車いすのベルトなど安全確保に努める。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%		
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	学期に一回以上、事例研修を実施。	

